

土木学会 建設マネジメント委員会 研究成果発表会(2007年度) 報告

2007年8月10日
研究問題検討小委員会

1. 目的

土木学会 建設マネジメント委員会(委員長:廣谷 彰彦)では15の研究小委員会を設け、建設マネジメントに関する研究を行っている。これらの研究成果の普及に資することを目的とし、2006年度の研究小委員会の活動から、次表に示すテーマに関して発表会を開催した。

2. 概要

研究成果発表会の開催日時と発表プログラムは下表の通りである。

日 時：平成19年8月10日（金）13:00～17:30

場 所：(社) 土木学会 講堂

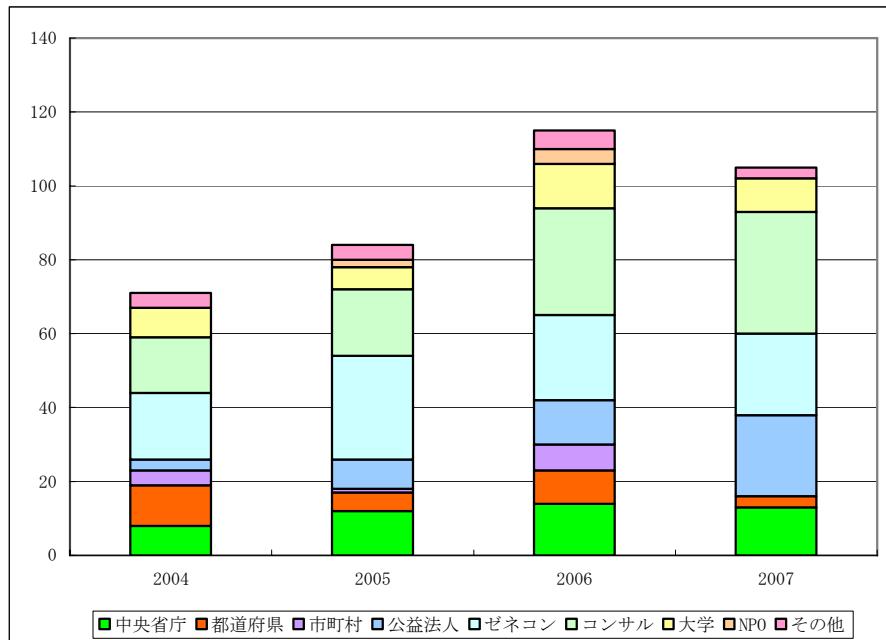
2007年度 建設マネジメント委員会 研究成果発表会 発表プログラム

研究成果発表会 (2007年度)		
13:00～13:10	開会の挨拶	建設マネジメント委員会：廣谷 彰彦 委員長
13:10～14:30	インフラ PFI 事業のための 技術的課題とその解決	インフラ PFI 研究小委員会 代 表：宮本 和明（武蔵工業大学） 発表者：北詰 恵一（関西大学） 小石川 隆太（高速道路技術センター） 渡会 英明（建設技術研究所）
14:30～15:10	中間法人による地域資産の所有と 住民参加型地域施設マネジメント システム構築に関する研究	地域施設マネジメントシステム研究小委員会 代 表：春名 攻（立命館大学） 発表者：山田 幸一郎（CAP）
15:10～15:20		休憩
15:20～15:40	建設マネジメント研究の 方向性について	研究問題検討小委員会 発表者：渡邊 法美 副小委員長
15:40～16:40	デザインビルド導入に向けて	デザインビルド導入研究小委員会 代 表：田村 哲（長大） 発表者：山下 智康（長大）
16:40～17:20	建設サービスの高度化時代における 技術公務員の役割と責務について	技術公務員の役割と責務研究小委員会 代 表：中村 一平（金沢工業大学） 発表者：松田 千周（建設技術研究所）
17:20～17:30	閉会の挨拶	研究問題検討小委員会：中村 一平 小委員長

3. 参加状況

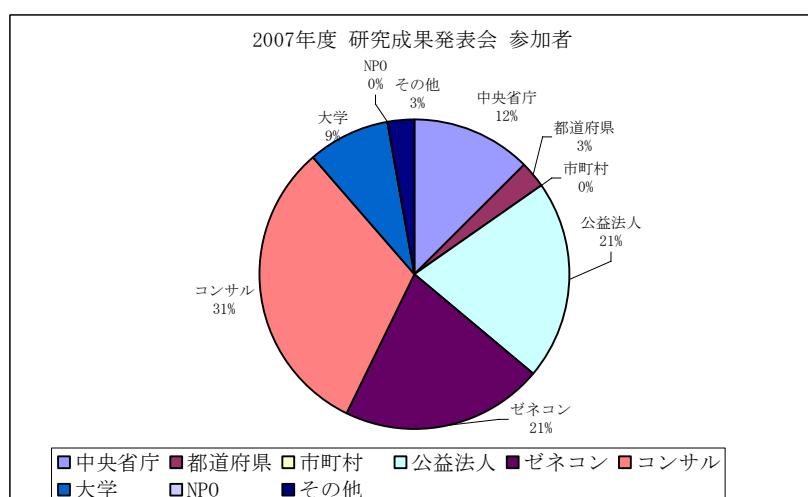
成果発表会の参加状況に関しては、事前申込（2007/08/09迄）が87名、当日参加等も含めた最終的な参加人数が105名となった。経年にみると前年度より10名（前年度比-8.7%）減少しており、区分別には、公益法人、建設コンサルタントが増加したのに対し、都道府県・市町村が減少している。

区分	2004	2005	2006	2007
中央省庁	8	12	14	13
都道府県	11	5	9	3
市町村	4	1	7	0
公益法人	3	8	12	22
ゼネコン	18	28	23	22
コンサル	15	18	29	33
大学	8	6	12	9
NPO	0	2	4	0
その他	4	4	5	3
合計	71	84	115	105



2007年度

区分	参加者数
中央省庁	13
都道府県	3
市町村	0
公益法人	22
ゼネコン	22
コンサル	33
大学	9
NPO	0
その他	3
合計	105



– 参加状況の推移 –



— 発表会当日の様子 —

4. 発表会に向けた取り組み等について

(1) 発表会に向けた取り組み

- 本年度は、発表応募のあった4つのテーマ（インフラPFI、地域施設マネジメントシステム、デザインビルド導入、技術公務員の役割と責務）の研究成果および建設マネジメント研究の方向性（研究問題検討小委員会）に関して、発表会を開催した。
- ホームページには7日前までに講演用テキストを適宜、掲載した。
- 前年度に引き続き、会場参加者へ成果発表会に対するアンケート調査を実施した。（調査結果は後述）

(2) 発表会を終えて

- 本発表会の開催案内に関する記事（建設通信新聞：2007/07/06、2007/08/10）が掲載された。
- 先述のとおり、参加者は前年度より減少（前年度比 -8.7%）したものの、105名の方にご参加戴いた。参加者が減少した要因は、「開催日の設定（道の日、お盆休み付近）」「学会誌（会告）へ掲載に間に合わかった」等が考えられる。次年度以降、これらの点に十分配慮し、準備を進めて行きたいと考える。
- アンケート調査結果によれば『成果発表会に参加し、参考になった』と回答された方が76%を占め、多くの参加者の方に満足戴けたものと考える。
- 参加者の年齢構成を見ると、30代～50代の方が85%を占めるのに対し、20代の方は9%と非常に少ない状況にある。今後の建設マネジメント委員会の研究活動を活性化するためにも、若手技術者の参画に向けたPRも重要と考える。

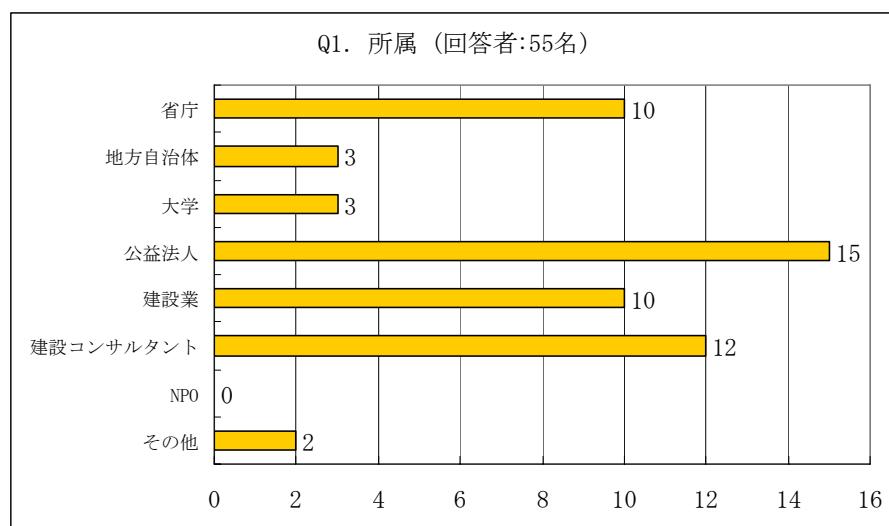
(3) 今後の方向性

- 今回の研究成果発表会より「建設マネジメント研究の方向性」と題し、昨年度開催した情報交換会にてワークショップ形式で討議した内容を紹介するとともに、会場参加者の方にご意見を戴いた。時間配分が少なかったため、十分な議論ができなかつたと考える。この点を十分配慮し、WEBの活用等、幅広い意見交換の場の構築を検討してゆきたい。
- 昨年度に引き続き、成果発表会に対するアンケート調査を実施した。本調査で得られた成果発表会に対する意見等を踏まえ、今後の委員会活動に反映できるようフィードバックしたいと考える。（ex. 研究小委員会の中間報告書のWEB公開、論文査読要領掲載の研究分類に対する質問等）
- 前年度同様、研究成果発表会は土木学会（講堂）において開催したが、将来的には個別の研究成果に対してニーズの高い自治体等での研修会（有料）を視野に入れて、活動を拡大していくことが重要と考える。

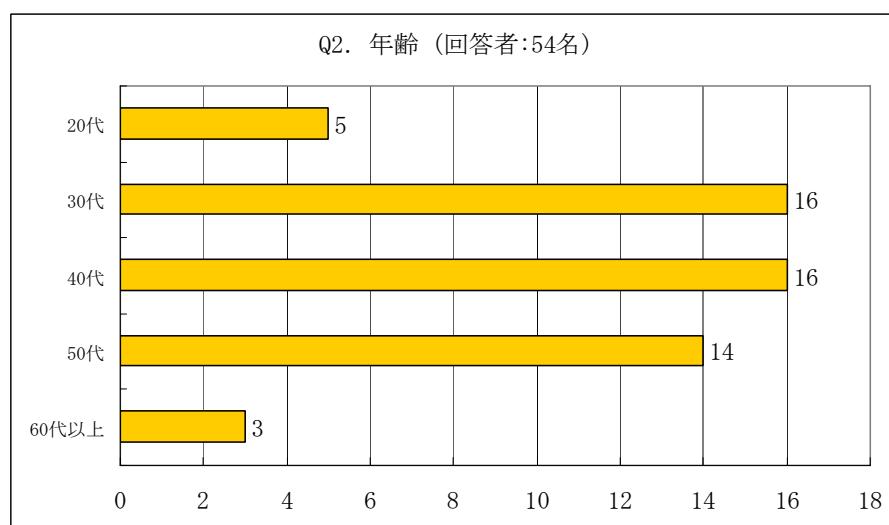
以上

《研究成果発表会 アンケート調査結果》

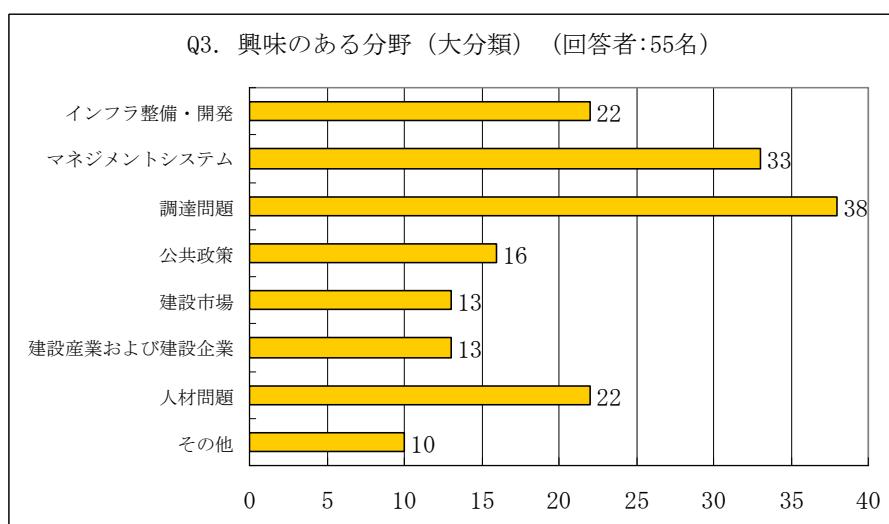
(1) 回答者の所属構成



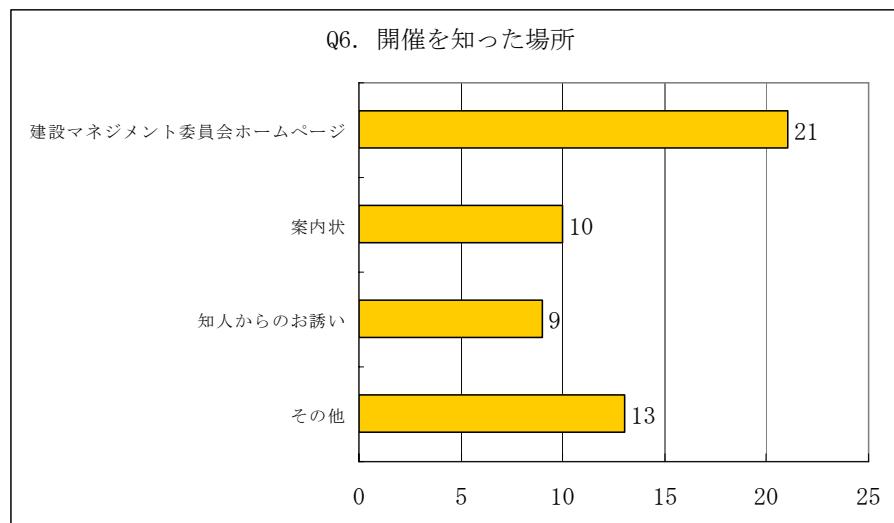
(2) 回答者の年齢構成



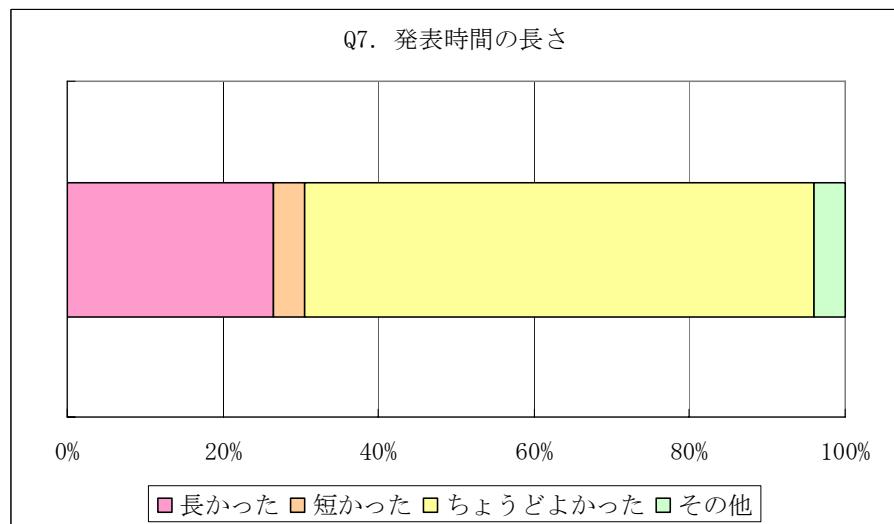
(3) 興味のある分野 (大分類)



(4) 開催を知った場所



(5) 発表時間の長さ



(6) 参加目的の達成

